

情勢報告（平成28年10月分）

中央西農業振興センター高吾農業改良普及所

小学生からお茶に慣れ親しむ ー南国市立後免野田小学校でお茶の出前授業を開催ー



お茶を楽しく飲んでいる

10月6日、JAコスモス職員、当普及所職員の2名が講師となり、南国市立後免野田小学校3年生26名を対象に、茶の種類、茶の生産状況、製茶方法、急須を使った茶のいれ方などについて、お茶の出前授業を行いました。

先月の大宮小学校と同様、お茶を急須で入れるのは、ほとんどの児童が初めてでしたが、4せん目まで飲む児童が多く、「おいしかった。2せん目は苦かったけど、4せん目までおいしく飲みました。家でもやってみたい」といった感想が聞かれました。

普及所では成人対象のお茶講座も開催しており、急須を使ったお茶の飲み方の普及にも努めていきます。

仁淀川流域茶の販売拡大のために ー茶の魅力を消費者にどう伝えるか！ー



販売増加のために真剣に学習する参加者

10月5日、当普及所において仁淀川流域茶産地振興協議会の勉強会を開催し、茶生産者やJA職員など14名が参加しました。

中村雅子氏による3回目の講義では、自製茶への思いを1分間スピーチで発表したり、販売時の身だしなみなどについて学びました。スピーチでは「自園自製茶は、栽培から加工出荷まで全責任を負っている」「幻の紅茶を復活させ、4年かけてやっと満足いく製茶技術が修得できた」「高知県茶品評会でずっと賞を取り続けている」ことなど各々のPRポイントを発表しました。12月には実店舗での接客研修を予定しています。

普及所では、勉強会の内容について、講師や協議会事務局と調整しながら、茶の販売拡大に向けた支援を行っていきます。

ニラ産地の維持・拡大に向けて ーそぐりセンター進捗説明会を開催ー



説明会を実施

10月7日、「JAそぐりセンター」設立の進捗状況の説明会をニラ生産部を対象に行い、生産者21名が参加しました。JA担当者が設備や事業費の概要を説明した後、普及所からは現状のそぐり経費やセンター利用経費の試算結果を報告しました。

生産者からは、「具体的な数字が出て検討しやすくなった」「センター利用による省力化に期待している」という声がありました。

普及所では、役員会を中心に受け入れ体制や品質などについて検討し、効率的なセンター運営に向けて支援していきます。

